

函館市教育振興審議会答申（案）

「令和 7 年度（2025 年度）教育委員会の事務の点検および評価報告書（案）（令和 6 年度（2024 年度）対象）」について、次のとおり答申する。

記

「教育委員会の事務の点検および評価報告書（案）」については、1 年間の教育委員会の取組を客観的に把握し、成果と課題を整理して取組の改善・充実につなげ、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを目的として作成されるものである。

今回諮問のあった本報告書（案）においては、教育委員会の活動状況や施策について点検および評価が行われており、それぞれ具体的な取組内容を把握することができる。

さらに、各施策については、事業ごとに過去 5 年間の取組実績のほか、成果と課題や評価、今年度の状況が示されているなど、点検および評価に関して必要な事項が記載されており、上記目的に照らし、適当である。

また、各施策の評価方法については、P D C A サイクルが明確化しており、本審議会からの意見をもとに、進捗状況、成果および課題を踏まえ、より客観性をもったものとなっている。

各事業については、函館市教育振興基本計画に基づき取組を進めており、今後も、社会情勢や教育を取り巻く環境の大きな変化を踏まえて改善・充実を図りつつ、その内容について、より一層市民への周知に努める必要がある。

なお、審議会の中で各委員から出された主な意見については、以下に示すので参考にされたい。

教育委員会の取組に対する意見

I 教育委員会の活動状況に関する点検・評価

- ・「今後の取組の方向」における「教育委員による所管施設への訪問などによる現状や課題の把握などを行うこと」は、施設や設備の維持、管理方法や各種大会運営のあり方を検討するうえでより重要になると思われ、状況により、今後訪問する施設・大会等の検討も必要ではないか。

II 教育委員会の施策に関する点検・評価

(全体を通して)

- ・評価手法としてPDCAサイクルが明確化され、市民への情報公開や審議会による外部意見の反映も進んでいる点は、高く評価できる。
- ・多くの取組が高い水準で推進されている一方、一部の取組でさらに改善すべきことも明らかにされている。

基本目標 1 変化する社会を生きる力の育成

施策 1 確かな学力を育む教育の推進

- ・児童生徒の読書活動の充実、学校図書館の地域開放等に学校司書の配置・活用は不可欠であり、取組の拡充のためには、学校司書等の継続した人材活用や配置拡大について取り組む必要がある。
- ・デジタルAIドリルについて、授業での活用のほか、家庭学習での活用の習慣付けが必要である。
- ・確かな学力の育成には、1人1台端末を活用した児童生徒のICT活用能力の向上、プログラミング教育の推進が重要である。

施策 2 豊かな心を育む教育の推進

- ・SNSでの不適切な投稿の判断基準など、児童生徒の情報モラルについてより理解を深める取組が必要である。
- ・いじめへの対応は、さらなるいじめが発生しないよう、児童生徒に配慮した対応に加えて、当事者、学校、家庭等との連携・協力が不可欠であり、今後もこころの相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の配置と活用を充実させていく必要がある。
- ・児童生徒の人権感覚・人権意識を高めることが、生命尊重の意識や自己有用感の向上、いじめの根絶、不登校児童生徒の減少につながると考えられるため、道徳教育の取組を一層充実させていく必要がある。
- ・主体的な学習に向けて、自己有用感等を高めるための授業改善や生徒指導の機能を生かした授業改善に取り組む必要がある。

施策3 健やかな体を育む教育の推進

- ・望ましい生活習慣や食習慣について、具体的な目標数値を設定した取組・評価を行うほか、関係部局と連携し、幼少期のうちに家庭へ向けた啓発を行いながら、取組を進めていく必要がある。
- ・安全・安心な学校給食の提供のため、各調理場では万全な体制で取り組んでおり、引き続き、体制の維持・強化をするとともに、日々の確認作業では発見しづらい経年劣化の対応については、定期的な確認作業が必要である。
- ・保護者に対して、朝食欠食状況や和食給食についての理解を図り、食育推進への協力・連携を一層進める必要がある。
- ・各学校における防災教育も含めた安全教育・安全管理については、取組を継続するとともに、関係機関や家庭、地域との連携を強化しながら、情報共有を図っていく必要がある。

施策4 幼児教育の充実

- ・幼児教育の充実に向けた幼保小の連携・接続の重要性について理解を深め、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの充実に取り組む必要がある。

施策5 多様なニーズに対応した取組の充実

- ・特別支援教育の充実に向けて、幼・小・中学校教員に対する実践的な研修を実施するとともに、各学校における特別支援教育支援員や特別支援教育巡回指導員等との連携・協力体制づくりに一層取り組む必要がある。
- ・児童生徒や保護者、地域の方に対する研修会を開催するなど、より広く特別支援に関する知識を深めるための取組が必要である。
- ・不登校児童生徒等への支援については、様々な対策を講じているものの、不登校児童生徒数は増加傾向にあることから、早期発見・支援強化のため、学校と家庭が連携した未然防止の取組や研修制度の充実、児童生徒一人ひとりの状況に応じた学習内容や学習方法等の検討、スタッフの増員などのサポート体制の強化が必要である。

基本目標2 地域とともにある学校づくりの推進

施策1 家庭・地域との連携・協働の推進

- ・コミュニティ・スクールや地域コーディネーターについて、必要性や重要性、取組等に関する情報発信を、より積極的・継続的に取り組む必要がある。
- ・学校運営の改善・充実をめざした学校評価について、広く周知が必要である。

施策２ 学校における指導体制等の充実

(意見なし)

施策３ 学校間の連携・接続

- ・同じ中学校区内の小学校に通う児童同士の入学前交流など，学校間が横の連携を行うことにより，児童の交流を深めるとともに，相互理解につながる。
- ・市内における平等な教育の提供や望ましい教育環境を整えるためには，学校再編は有効だと考えるが，通学距離や時間などの課題もあり，引き続き，保護者や地域への情報提供や連携の強化を図る必要がある。

基本目標３ 函館への愛着や誇りと未来へ飛躍する力の育成

施策１ 函館への愛着や誇りを育む教育の推進

- ・函館の良さを児童生徒が理解し実感するためには，地域資源の積極的な教材化が重要であり，市立函館高校の「函館学」をはじめとする地域探究学習を充実させていく必要がある。

施策２ 未来へ飛躍する力を育む教育の推進

- ・地域探究学習に積極的に参加することや，キャリアパスポートの活用が，個々のキャリア形成につながっている。

基本目標４ 生きがいを創り出す生涯学習の推進

施策１ 生涯学習活動の促進

- ・シニア大学を実施することにより，高齢者の仲間づくりを通じて，生きがいのある生活の実現に寄与している。

施策２ 社会教育活動の推進

- ・学校施設の文化開放など，無償での学びの場の提供は，市民の生涯学習活動に寄与していることから，さらなる活用につなげていただきたい。

基本目標５ 心の豊かさを育む文化芸術の振興

施策１ 文化芸術活動の促進・支援

- ・文化芸術アウトリーチ事業について，活用学校数や件数に大きな変化はないが，活用児童生徒数が増加しており，各学校の前向きな姿勢が感じられることから，今後も継続して取り組んでいただきたい。

施策２ 文化遺産の保存・活用と伝統文化の継承

- ・伝統文化の継承などは，伝承者の高齢化や後継者不足が大きな課題であり，活動に対する支援とともに，音声・映像等を残すなど，伝統文化を絶やさないための手立てを講じる必要がある。

社会教育施設等の維持管理

- ・屋外競技施設や屋内競技施設の維持管理については、自治体単位ではなく広域で行うなど、少子高齢化や人口減少等の時代背景を踏まえたシステムの構築の検討も必要である。

基本目標 6 健やかな心身を育む運動やスポーツの振興

施策 1 運動やスポーツの振興

- ・本市では、生涯を通じてスポーツに親しむ機会を充実させており評価できる。
- ・部活動の地域連携・地域移行等について、推進計画策定や拠点校方式による部活動のモデルケースの実施など取組は進んでいるものの、今後、地域クラブ等の運営や指導者の確保が難しい状況になると思われるため、運営方法の確立に取り組んでいく必要がある。
- ・函館マラソンは、例年のイベントとして周知が広がり、市民だけでなく、全国からランナーが集まり、多くの人にスポーツを楽しむ機会を提供している。
- ・幼少期から運動を始める契機となるような、全市的な取組を検討していただきたい。